



令和5年5月30日（火）第6号

『校長室の窓から』

八尾市立龍華中学校発行

テストの向こう側

5月25日（木） 1学期中間テスト第1日を終えた生徒の皆さんが帰宅した頃、約束の時刻に第22期卒業生の方が本校を訪問されました。事前に電話があり、「この夏に同窓会を開くにあたり、同窓会会場で卒業した龍華中学校の現在の様子を映したい。については訪問のうえいくつか写真を撮りたい」とのことでした。現在は奈良県のお住いのその方は、中学生の頃の校舎の様子や周辺の状況、お世話になった先生のお話等をされながら、私は校舎内をご案内しました。撮影を終え、校長室にて、当時の学校の写真をお見せしたり、その方の人生の来し方についてのお話を伺ったりしました。会社員の頃は金融業界に身を置かれ、スイスやイギリス、フランス等海外勤務も長く、数か国語を操れるとのこと、ドイツ語で話しかけられたときは「大学時代、第2外国語はフランス語でした」と日本語で返事するのがやっとでした。

「海外生活が長い方から見て、日本の教育はどう感じられたり思われたりしましたか」と質問しました。「とにかく自分の考えを話して表現することが大切。黙っていたら、日本では周りが気遣って会話の機会を与えてくれることもあるが、外国ではそういうことはありません。言語で自分の考えを論理的に伝える力がとても大切であり、それが自分の存在を証明することにもなる」といった旨の話をされました。興味深い話は尽きず、来校されてからお帰りになるまで約2時間が経っていました。

この4月には、第10期の方々も来校され、「10期生としては最後の同窓会を開きました」との報告を受けたこともあり、母校に愛着のある先輩方が多いという印象を、本校卒業生に持っています。

在籍する生徒の皆さんも、本校を卒業後、同窓会を開くことがあることでしょうか。その時、龍華中学校は、どのような変化を遂げているのでしょうか。

5月26日（金） 1学期中間テスト第2日を終えた生徒の皆さんが帰宅したこの日の午後は、水泳指導に備えるための、職員によるプール清掃日でした。13時からと決まっていたのですが、体育科の教員をはじめとして予定の時刻より早くから掃除に取りかかっている職員もいました。枯れ葉等が排水口をふさいでいるのか、防火用水としてプールに貯めていた水がなかなか排水されず、棒を使ったり腰をかがめて手で排水口の枯れ葉等を取り除いたり、あるいは貯まっている水をバケツに組んでプールサイドに流したりしながらプール内部を懸命に掃除する、多くの職員の姿が目に残りました。可能な範囲での協力を、ということでしたが25人ほどの職員がプール内外の掃除にあたっていました。頭が下がる思いでした。

プール清掃の後、16時から、八尾市消防本部の職員を講師に招き、心肺蘇生法およびAEDに関する研修を実施しました。研修の目的は2つで、一つは、直ちに手当が必要な人に対して、救急隊が到着するまでの間、適切な観察と判断のもとで、救命のための応急手当を行うのに必要な知識と技術を習得すること。もう一つは、永畑小・龍華小・龍華中、3校の教職員が一堂に会して研修を受けることでした。総勢70名が本校体育館に集い、研修を1時間弱受けました。心肺蘇生法・AEDの適切な使用による応急手当が、救命率の向上やその後の社会復帰に大きく影響します。我が身を守りながらも、知識と技術に勇気を加えて命を救う教職員とならなければなりません。

研修終了後、テストの採点を続ける教員も多数いました。正解が多いと採点は捗ります。不正解にであうと、どうして間違っただろうと誤答の道筋を追いかけその原因を考え、時には『教え方に至らなさがあった』と自省します。不正解の多かった箇所やポイントになる箇所はテスト返却時をはじめとした機会に改めて生徒が理解できるよう授業で再学習を図ります。提出されたワークやノートなどの内容確認も行ったうえ返却をします。プール掃除も続きます。業務にかかる時間はいくらでも必要なのが実情です。